

令和元年6月28日現在

機関番号：82610

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11574

研究課題名(和文) 新興・再興感染症および生物災害に対する看護師の準備性と教育に関する研究

研究課題名(英文) A research on nurse's readiness and training for emerging diseases, re-emerging diseases and biological disaster

研究代表者

森 那美子 (Mori, Namiko)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・国立看護大学校

研究者番号：20421828

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：近年、交通手段の高速化と移動の容易化により、海外での新興・再興感染症の流行は日本においても脅威となっている。医療機関を受診する新興・再興感染症患者への適切な看護ケアは、適時の医療提供、院内および地域への感染拡大防止、医療従事者の職業感染防止のために重要である。本研究の目的は、新興・再興感染症および生物災害に対する看護師への教育プログラム開発と、それらの患者が受診した際に安全な看護ケアを行うための教育実践である。本研究成果として、新興・再興感染症および生物災害看護教育プログラムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では新興・再興感染症、生物災害について、看護に関する研究はほとんどなく、看護師養成課程や看護師継続教育(卒後教育)でも系統的な教育が行われてこなかった。本研究で開発した教育プログラムを用いることによって、診療の最前線にいる看護師が、新興・再興感染症および生物災害に対する知識・技術の獲得や危機意識を持つことが可能になり、外来や救急部署を受診する患者の新興・再興感染症および生物災害被災のリスク評価、感染症患者への適時の医療提供、院内および地域への感染拡大防止、医療従事者の職業感染防止が可能になると考える。

研究成果の概要(英文)：Epidemics of emerging diseases and re-emerging diseases in other countries have become a threat to Japan due to the increased speed and ease of transportation and travel. Appropriate nursing care for patients who bring emerging diseases and re-emerging diseases into a hospital is important for providing timely medical treatment, preventing the spread of the disease, and preventing occupational infection. The purpose of this study was to provide a nursing training program for emerging diseases, re-emerging and biological disaster and to train nurses to use safe practices during care to patients with emerging diseases and re-emerging diseases. As outcomes of this research, I have developed training programs for nurse for emerging diseases, re-emerging diseases and biological disasters.

研究分野：感染制御学

キーワード：新興・再興感染症 生物災害 看護師 継続教育 看護師養成課程 準備性

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ、エボラ出血熱など、新興・再興感染症の出現および世界的規模の流行が発生し、各国の医療システムのみならず社会全体でも大きな問題となっている。新興・再興感染症には、ヒト-ヒト感染するもの、早期に治療を行わないと死亡あるいは重篤な感染症を引き起こすものが多数ある。2014年のエボラ熱流行では、米国で最初に感染が確認された患者の初診時に、医療スタッフは当該患者にエボラ熱の可能性あることを認識せず、適切な処置を行わなかった。そのため、当該患者の担当をした医療スタッフがエボラウイルスに感染し、更に患者へ接触して医療監視が必要となる要観察者が拡大する事態となった¹⁾。医療スタッフが平時より新興・再興感染症に関する知識を持ち、新興・再興感染症を念頭において感染制御的に適切な診療を行うことで、生物災害の早期発見・早期対応や災害の最小化を図ることが可能になる。看護師は、患者診療の最前線にいる医療チームの中で、直接的な患者ケアのみならず、患者の誘導、トリアージ、搬送、診療の補助、家族への対応など、幅広い内容の業務を担当するため、新興・再興感染症および生物災害に関する知識や技術を身に付ける必要がある。

日本では新興・再興感染症について、発生時の各種機関連携・対応に関する研究や、患者診断治療法などについての研究、リスクコミュニケーションについての研究²⁾等はあるが、看護に関する研究は少なく、看護学生に対する新型インフルエンザ流行シミュレーション演習報告などのみである。また、日本の看護研究や看護教育の中で、生物災害は災害看護の一部として言及されることはあっても、生物災害に焦点を当てた研究はほとんど見当たらない。

本研究で開発した教育プログラムを用いることによって、診療の最前線にいる看護師が、新興・再興感染症および生物災害に対する知識・技術や危機意識を持つことが可能になり、外来や救急部署を受診する患者の新興・再興感染症および生物災害被災のリスク評価、感染症患者への適時の医療提供、院内および地域への感染拡大防止、医療従事者の職業感染防止が可能になると考える。

2. 研究の目的

- 1) 看護師の新興・再興感染症、生物災害に対する看護師養成課程教育・継続教育(卒後教育)の状況を把握する。
- 2) 新興・再興感染症を含めた生物災害時の看護に関する看護師養成課程・継続教育向け教育プログラムを開発する。

3. 研究の方法

1) 用語の操作的定義

本研究では生物災害を、「自然発生あるいは人為的発生にかかわらず、微生物および生物産生物によって引き起こされる、社会や医療システムの対応能力を超えた危機的状況。振興・再興感染症やバイオテロリズムの発生および流行等」と定義した。

2) 新興・再興感染症および生物災害看護に関する教育の実態調査

平成27年度は(1)初期診療を担当する可能性のある看護師の、新興・再興感染症および生物災害に対する準備性について明らかにする (2) 外来および救急医療担当部署を有する医療施設に勤務する看護師の、新興・再興感染症および生物災害に関する継続教育について明らかにする ことを目的として質問紙調査を郵送法にて行った。(1)の調査対象は層化無作為抽出した外来および救急医療担当部署を有する808病院に勤務する看護師(各施設3名)(2)

は同施設の看護師継続教育担当者（各施設1名）とした。調査項目は、（1）では新興・再興感染症および生物災害の基本的知識、生物災害発生の認知の傾向、新興・再興感染症に対する取り組みの有無など66項目とした。（2）では看護師継続教育における微生物学・感染症学・感染症看護学・感染制御学的内容の有無と位置づけおよび時間配分、対象施設における危機管理マニュアルおよび感染管理マニュアルの有無と内容、感染症医・感染管理認定看護師・感染対策チーム等の有無と活動など66項目とした。

さらに、平成28年度は（3）看護師養成課程における災害教育および新興・再興感染症や生物災害に関する教育の実態を明らかにすることを目的として、全国805校の看護師養成学校を対象として、質問紙調査を郵送法にて行った。調査項目は、教育カリキュラムにおける災害看護教育、生物災害教育、新興・再興感染症教育、標準予防策教育、感染経路別予防策教育のそれぞれの位置づけと内容、学習する学年と時期、時間配分、教育担当者の職種と専門分野、教育内容、教授方法、評価方法など53項目とした。

調査にあたり、国立国際医療研究センター倫理委員会による審査を受け、承認を得た。

3）新興・再興感染症および生物災害看護に対する教育プログラムの開発

平成29・30年度は以上の調査によって把握された現在の新興・再興感染症および生物災害看護教育の状況に基づき、看護師養成課程および看護師継続教育に必要とされる内容・手法を精選し、教育プログラムを作成した。

4．研究成果

1）新興・再興感染症および生物災害看護に関する教育の実態調査

（1）については、272施設594名からの回答を得た（施設回答率33.7%、対象者回答率24.5%）、（2）については、253施設253名からの回答を得た（回答率31.3%）、（3）については、374校からの回答を得た（回答率46.5%）。

（1）初期診療を担当する可能性のある看護師の新興・再興感染症および生物災害に対する準備性

回答者の大半は過去3年間に、院内感染対策やインフルエンザ対策に関する研修を受講していたが、バイオテロリズム対策や特殊災害対策については受講が少なかった。各種災害に対する不安を4段階選択肢で質問したところ、不安を示す「やや不安である」「非常に不安である」を選択した回答者は、バイオテロリズムが最も多く、大規模地震災害、多剤耐性結核流行が続いた。初期診療を担当する可能性のある看護師は、各種の災害のうち、バイオテロリズムについて教育を受けていない者・不安のある者が多かった。

（2）外来および救急医療担当部署を有する医療施設に勤務する看護師の新興・再興感染症および生物災害に関する継続教育

外来および救急医療担当部署を有する医療施設における調査では、院内感染対策に関する教育はほとんどの医療施設で行われていたが、「生物災害」に関連する教育の実施については、新興感染症対策・再興感染症対策は1割未満、バイオテロリズム対策はほとんど行われていなかった。

（3）看護師養成課程における災害教育および新興・再興感染症や生物災害に関する教育の実態

看護師養成課程における調査では「災害看護」教育は3年制課程、4年制課程ともほとんどの学校で行われていたが、「生物災害」教育の実施率は2割未満であった。生物災害に関連する教育内容のうち、生物災害定義・感染症流行の種類・標準予防策・感染経路別予防策については半数以上の学校で教授されていたが、バイオテロリズムやリスクコミュニケーションに関する内容はほとんど教授されていなかった。

2) 新興・再興感染症および生物災害看護に対する教育プログラムの開発

(1) 看護師継続教育用生物災害教育プログラム

ほとんどの医療施設では、バイオテロリズムや特殊災害に対する教育が行われておらず、不安を有する看護師も多いことから、バイオテロリズムを主軸にした教育プログラムとし、当該医療施設の行う他の研修内容に合わせて、新興感染症、再興感染症に関する内容を追加できる様式とした。つまり、基本項目(バイオテロリズム)に、看護部の継続教育計画や所属看護師の教育ニーズを基に、自由選択項目(新興感染症、再興感染症)を追加できるプログラムである。

(2) 看護師養成課程向け生物災害教育プログラム

ほとんどの学校では、生物災害時に実際に医療現場で必要になる各種予防策や微生物に関する知識事項は他科目で学習済みであることから、独立した生物災害授業シリーズとするのではなく、生物災害教育を確実に実施するために、災害看護授業シリーズの1部として「生物災害」を組み込み、既習の内容の確認を含めて重要事項を学習する内容とするものとした。つまり、科目「災害看護学」の中の一単元「生物災害」とするプログラムである。

3) 今後の課題

今後は、作成した教育プログラムを用いて実際に教育を行い、プログラムの教育効果を検証する必要がある。

また、今回開発した看護師継続教育用生物災害教育プログラムは、初期診療を担当する外来および救急部署担当看護師の準備性の状況を反映したものである。新興・再興感染症患者が入院加療を受ける場合、病棟で関わる看護師にも疾患や治療、感染防止策に関する知識や技術が求められる。従って、病棟看護師の新興・再興感染症や生物災害に対する準備性を把握し、病棟看護師用の生物災害教育プログラムを開発することも検討する必要があると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。